

製造、加工技術さらに高める

関東、東北中心に切れ目なく受注確保

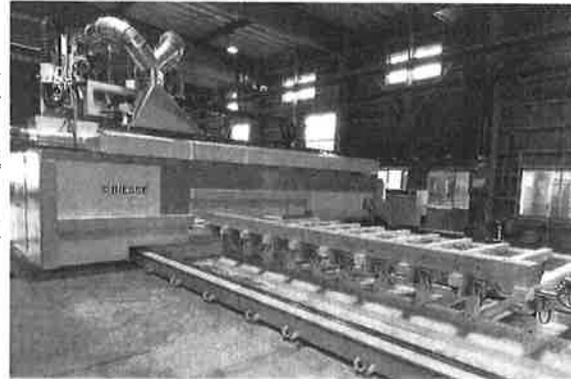
藤寿産業

藤寿産業(福島県郡山市、蔭山寿一社長)は中・大断面構造用集成材の製造や中大規模木造建築向け部材の加工を専門としている。

2017年の構造用集成材の生産量は約3500立方メートル。9割が国産材で、カラ松60%、杉40%。輸入材は米松で、Rウッド集成材など一般流通材が必要な場合には外部から仕入れて販売している。

昨年はカラ松のタイト感が強く、集材に苦労することもあったので、物件や構造に合わせて集荷が安定している杉を設計段階で織り込んでいくなど、樹種面での提案も行っている。

集成材の生産量は16



今年3月に導入したエクストラ

年とほぼ同水準だった。次部材にはムク材と組むが、部材加工は増加傾向で、年間を通じて忙しい。同社では、通常のNC加工機2基と15年9月に導入したユニークなチームのNC加工機「ウルトラ」を持つ。木質部材の加工を手掛けている。主要フレームに大断面集成材、2材やCLTの加工に

民間の中大規模木造物件が多く、東日本震災からの復興需要も宮城県内では一服したものの、岩手県は沿岸部で耐火集成材を作るよ域もあって、今後動き出す物件も少なくない。福島県内では、原発事故による避難指示区域の解除が進むなかで、公営住宅や公共施設などの物件も見込まれている。

このため、同社では今年3月下旬にユニークなチーム製NC加工機「エクストラ B.M3」を導入した(3月29日付既報)。ウルトラとエクストラそれぞれの特徴を生かしながら、加工対応能力の向上を図っていく。

最近の物件の傾向に2年半が経つにつれて西村義一専務は「大手ゼネコンが主導する形で設計や施工を織り込んだ物件が増えている」と話す。同社では昨年、大断面集成材用の2次接着用プレ

「ウルトラ」は大断面集成材の加工に

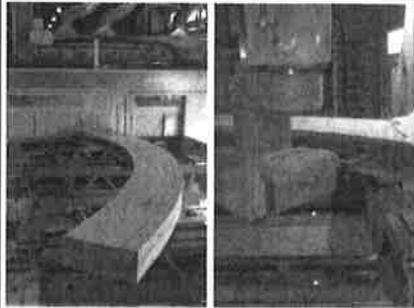
対応してお

り、同社が得意とする湾曲集成材(3月29日付既報)の加工に高い加工精度を持って

いる。

ウルトラの導入から2年半が経つにつれて西村義一専務は「大手ゼネコンが主導する形で設計や施工を織り込んだ物件が増えている」と話す。同社では昨年、大断面集成材用の2次接着用プレ

大断面材、湾曲材、パネル材の特殊加工を高精度で実現



「柔」Ultra × 「剛」Extra



「Extra BM3」を新たに設置
木構造のあらゆる加工に対応
国内最大級の加工能力!

・最大長さ16M、最大断面サイズ
巾3,000mm×高さ400mm(平角)
600mm×600mm(正角)
までの大断面材、大版パネルの加工が可能

・CAD/CAMデータ連動にて、湾曲材も含めて3次元での全自動加工が可能

集成材JAS認定工場
TOJU 藤寿産業株式会社

〒963-0724 福島県郡山市田村町上行合字西川原35
TEL: 024-944-7550 E-mail: info@toju.co.jp
HP: https://toju.co.jp

※ホームページで最新情報を発信しております